

1. コラム「論点提起」: 「実証」から「導入」への脱皮や如何

日本においては、新しい仕組みや技術・システム等の開発・導入にあたり、常に「実証(実験)」「特区」等の云う段階が入る。そして、その段階の期間が長く、「導入」へなかなか移行できない。

例えば、ITS(Intelligent Transport Systems 高度道路交通システム)に関していえば、1996年に「ITS推進に関する全体構想」が5省庁(当時。現4省庁)合意のもとに策定され、3年後の1999年には、いまや当たり前に思われているETCが導入された。2020年12月現在、ETC搭載率は93%※に達している。(出典:ETCの利用状況 国土交通省 <https://bit.ly/3aYiKvF>)

しかし、その頃から既に開発・実証実験されていた追従走行、自動運転等は未だに「実証実験」の段階にある。EV化の動きとも相まって自動運転システムの「導入」が急がれるのに、なかなか「導入」に至らない。これだけ長期間、実証実験ばかりにつきあわされていたら民間企業も疲れる。海外企業(Google、テスラ等)に世界市場で負ける。そのうちに「アップルも参入」してきて景色を一変させるかもしれない。土俵のルールが大きく変わろうとする流れに取り残される。

出典:ITSの高度化に向けた政府の取組事例 2019年3月 内閣官房 IT 総合戦略室 <https://bit.ly/3soxnOG>
アップルのEV参入「テスラの強力なライバルになる」と投資会社CEOが予想 問題はどこが作るか engadget 日本版 2021年02月15日, 午後06:30 <https://engt.co/3aW7hwo>

社会システム的な仕組み/システムの導入はもちろん慎重であるべきであるが、新技術がある一定の熟度に達するには200年を要するとも云われる。自動車は登場してようやく100年超。導入しながら不具合に対応しながら進化していくしかない。「実証」をいかに短くし、早期に「導入」段階(市場興し)に持っていくか、100%安全・完全な仕組み・システムはありえない。

